

暖地甜菜の直播採種に関する研究

第1報 栽植密度、翌春の追肥の種類と量並に現地栽培について

末沢一男・安部秀雄

暖地において秋播の直播採種する場合の栽植密度並に追肥の量と現地栽培について試験を行った。

1. 栽植密度は原料用甜菜栽培より多くアール当 1500~1800 程度が好成績を得た。
2. 翌春の追肥は窒素、燐酸共に肥効があり、その施用量は窒素がアール当 0.2Kg、燐酸 0.4Kg、程度は必要と考えられた。
3. 現地栽培に於いては、北海道の平均収量程度は得られ採種に要する期間も 10 ヶ月で可能であり、新しい品種を急速に増殖する場合など暖地において最も適当な栽培法と考えられた。